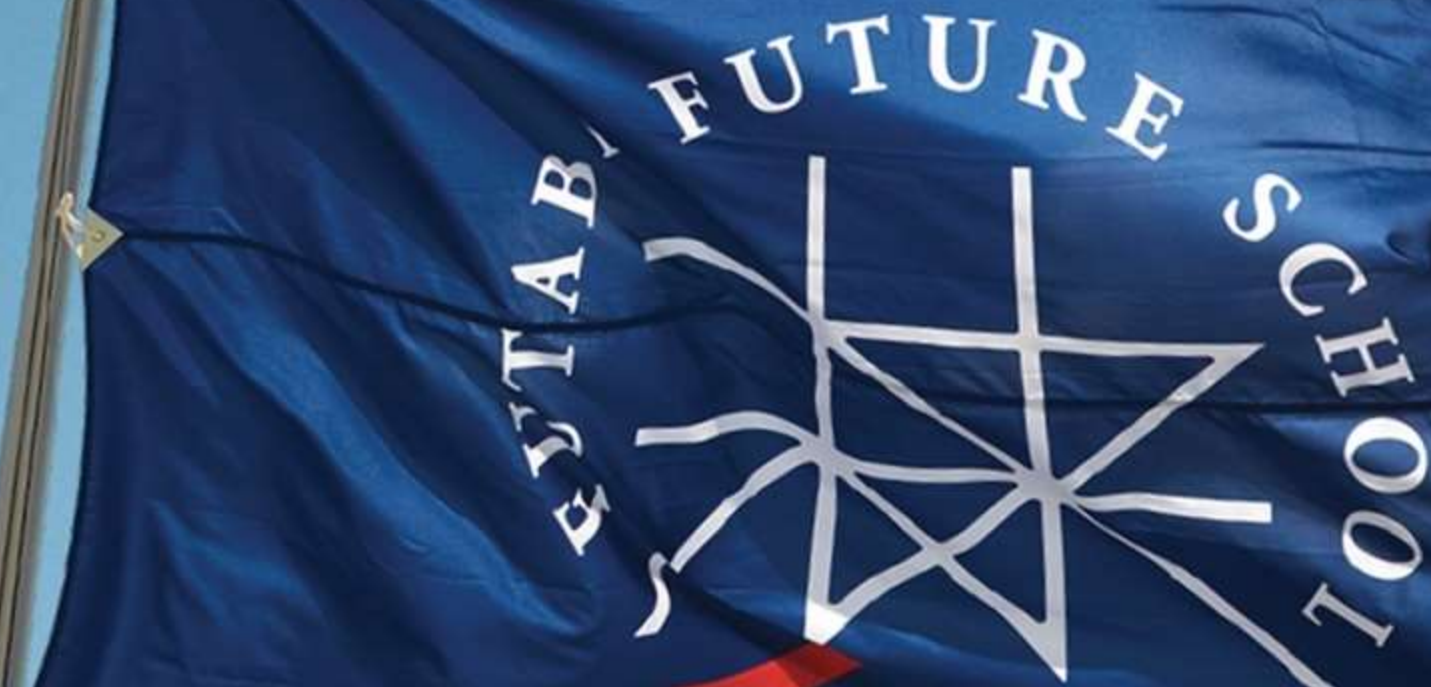


福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会 第26回会議資料

R6.2.2.FRI@富岡中学校



2023年度の活動報告資料

福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校

2023年度の主要トピックス



1 地域に根差した勢いある教育活動の推進

中高とも双葉郡ゆかりの生徒を含め定員一杯の新入生を迎え2023年度をスタートし、本校を会場として様々な行事が実施された。

2 WWLコンソーシアム構築支援事業の開始

2015年の開校時から続く文部科学省事業のSGHやグローバル型等の実績を生かし、今年度からWWL拠点校としての取組を始めた。

3 アフターコロナにおける生徒たちの大活躍

新型コロナウイルスが5類感染症に移行したため、生徒たちは部活動等（運動部も文化部も）で大いに活躍し、素晴らしい実績を残した。

4 創立10年の節目のふたば未来学園の決意

2024年4月に創立10年目を迎え、同時にJFAアカデミー福島への帰還と中学校一期生が最高学年になり、形の上では完成する。

1 中高とも定員一杯の新入生

令和5年度新入学生

- ・中学校 60名(双葉郡枠20%程度含)
- ・高等学校 160名(連携型選抜30%程度含)

※高等学校では、3年振りに定員160名を上回る志願があり、在籍生徒約600名で令和5年度がスタートした。双葉郡ゆかりの生徒が受験できる連携型選抜では志願者31名全員が合格した(寮生も開校後初めて200名を超えた)。



令和5年度入学式



中学生入場の様子



休校5校の校旗

2 本校会場で各行事を実施

新型コロナウイルスが5類感染症に移行し本校会場で各行事が対面で開催された。

- ・7/25 ふたば生徒会連合
生徒会の生徒たちが一堂に会して交流。
- ・7/30 絆づくり交流会
郡内の小学生が本校アリーナ1に集結。
- ・8/3 中高生交流会
双葉郡の中高生のため、著名人が来校。



7/25ふたば生徒会連合



7/31絆づくり交流会



8/3中高生交流会

2 本校会場で各行事を実施

※ふたば未来で過去最大数の双葉郡行事開催！

- ・12/2 ふるさと創造学サミット
去年に引き続き2度目の双葉郡内の開催。
郡内の小中高校生が一堂に会しました。
子どもの多さに驚き、感慨深い光景でした。
- ・1/22 双葉郡子供未来会議
子どもたちの教育のために先生方が研修。
より良い教育を行うため、皆熱心に参加。



【トピックス2】WWLコンソーシアム構築支援事業の開始

研究開発 構想名	原子力災害からの復興を果たし、新たな社会を 創造するグローバル・リーダーの資質・能力の育成	目的	① 本県から東北地区に展開するグローバル人材育成の アドバンスト・ラーニング・ネットワークの形成
育成 人材像	地域や世界の課題と自己の夢とを重ね合わせ、当事者として行動する市民性 立場・価値観の違いによる分断や対立を止揚する協動的ネットワーク構築力 地域の資源を見出し、世界に新たな価値を創造する力		② 探究・海外研修・APを体系的に位置づけたカリキュラム開発 ③ 地域や世界の課題解決に貢献する人材の育成 ④ 「教育」と「創造的復興による持続可能な地域実現」 の相乗効果創出

機構・地域・大学等と
協働したグローバル課題
解決探究プロジェクト

- ④ 「教育」と「創造的復興による持続可能な地域実現」の相乗効果創出
- ③ 福島国際研究教育機構をはじめ、地域や全国・海外で世界と協働しながら活躍する人材の輩出

高校生国際会議の
開催(国連関係者・
海外連携校等参加)

事業協働機関

**福島国際研究教育
機構(F-REI)**

- 探究への専門的助言
- 研究者と生徒による協働プロジェクト
- キャリアカフェ

東北大学

- より高度な探究へ向けての専門的助言
- 生徒主催双葉郡FWへの大学留学生の参画
- 大学授業先取り履修と単位認定

早稲田大学

- 探究への専門的助言(リエゾン・マネージャー常駐)
- 協働での創造的復興探究プロジェクト[ふくしま学(案)会等]

福島大学

- 個に応じた探究へ向けての専門的助言

NPOカタリバ

- カリキュラム共同開発

**大学教育の先取りによる
高度な学びの実施**

- 大学と連携したアドバンストブレ
イスメントの導入
「学問論演習など」(東北大)
- その他文理横断的な高度な学び
(東北大・早稲田大学)

**福島をフィールドとした
グローバル探究**

- 大学連携による文理融合した高度な
学問との接続を強化した探究カリ
キュラムの実践
- 地域課題の取材と演劇を通じて、
「創造力」等の資質・能力を強化
- アカデミックライティング等の
スキル育成強化

**世界をフィールドとした
グローバル探究**

- 探究ゼミと連動したプロジェクト
型海外研修
- オンライン・対面でのグローバル
課題探究授業連携
- 生徒主催の双葉郡FW(東北大、UNIS)
- 外国人指導者等によるグローバル
課題やライティングスキル育成

連携校(海外)

**国連本部
Civil Society Unit**

世界の課題の最前線へ向き
合っている国連職員と意見
交換、議論を行い福島
の課題と世界のつながりを創造
的に理解する。

**国連国際学校
UNIS(アメリカ)**

「持続可能な社会づくり」
をテーマに地球規模での課
題について世界の同世代と
意見交換、議論を行う。
差別や対立・分断について
米国の現状を学び乗り越え
る方策を探る。

**エルンスト・
マッハ校(ドイツ)**

住民の積極的な参画・関与
によるまちづくりや再生可能
エネルギーの活用を学ぶ。
演劇やプレゼンによる福島
の現状報告を行い、地域の理解
を促進する。

**ブロックハウス
・ベイ校(NZ)**

中学校3年間の学習の集大成
として、「福島の魅力」と
福島の今を発信・交流を行う。

② 探究を軸としたカリキュラム編成と海外研修・APを体系的に位置づけたカリキュラム開発

原子力災害・ 伝承探究ゼミ	原子力災害からの復興や廃炉など福島固有 の問題を軸にしながら地域社会の在り方を 探究する。	共生社会探究ゼミ	地域に暮らす人と人との関係性や、ウェルネス (健康・福祉・医療にとどまらない社会的環境 の豊かさ)について探究する。
地域社会・ 経済産業探究ゼミ	断絶してしまった地域コミュニティの再構築 について、生業や農商工業などの産業振興や 社会システムの観点から探究する。	人間科学・文化・ 芸術探究ゼミ	人間の心理・行動の分析や、人間が生み出 す芸術・アートを生かした社会のあり方 について探究する。
自然科学・ 地球環境探究ゼミ	研究開発拠点が集中する地域特性を活かし、 自然現象の真理や、人間社会と地球環境との 関係性を探究する。	スポーツ医・ 科学探究ゼミ	スポーツ医・科学に基づいたハイパフォーマンス の実現や、トップアスリートの育成にお ける社会環境等について探究する。

事業拠点校：福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校

連携校(県内)

福島県立福島高等学校
福島県立安積高等学校
福島県立会津高等学校
福島県立会津学鳳高等学校・中学校
福島県立磐城高等学校

① 福島アドバンスト・ラーニング・ネットワークの形成

- 構想目的の共有
- カリキュラム改革(探究カリキュラム強化)
- 連携大学AP科目履修
- 教員指導力向上

**管理機関
福島県教育委員会**

宮城県仙台二華中学校・高等学校

山形県立東桜学館中学校・高等学校

連携校(県外)

緊密な「横のネットワーク」

【トピックス2】WWLコンソーシアム構築支援事業の開始



福島の問題と世界の課題を重ね合わせ、未来創造型の探究・課題解決の実践活動を展開する。これまでのゼミを学術分野で再編成。福島国際研究教育機構(F-REI)の研究分野ともリンク。

原子力災害・伝承探究ゼミ

原子力災害からの復興や廃炉など福島固有の問題を軸にしながら地域社会の在り方を探究する。

科学技術による発展と不確実なリスクへの対応や、**廃炉の進め方、廃炉推進の際の合意形成のあり方、偏見や風評、原子力災害等の厄災からの教訓の後世・世界への発信と伝承**などの課題を設定し、**トランス・サイエンス**の時代における課題の解決に向けて探究と実践を行う。

共生社会探究ゼミ

地域に暮らす人と人との関係性や、ウェルネス(健康・福祉・医療にとどまらない社会的環境の豊かさ)について探究する。

対立や分断を超えて多様性を認め合う包摂的な共生社会の実現や、**市民性とアイデンティティの確立によるコミュニティの真の自立(自助・共助・公助)**、**スポーツによる健康増進や豊かなコミュニティの実現**などの課題を設定し、課題解決に向けて探究と実践を行う。

地域社会・経済産業探究ゼミ

避難や少子高齢化等により断絶してしまった地域コミュニティの再構築について、生業や農商工業などの産業振興や社会システム(仕組み)の観点から探究する。

地域の農林水産資源を活用した6次産業化等による新たな価値の創造や、**イノベーションによる新たな産業の創出、循環型の社会・経済システムの実現**などについて課題を設定し、その解決に向けて探究と実践を行う。

人間科学・文化・芸術探究ゼミ

人間の心理・行動の分析や、人間が生み出す**芸術・アートを生かした社会のあり方**について探究する。

差別・偏見のメカニズムの解明や、**芸術・アートを生かしたウェルビーイングを追求するコミュニティの実現**、地域の**文化財や伝統芸能などによる地域のアイデンティティの確立**などの課題を設定し、課題解決に向けて探究と実践を行う。

自然科学・地球環境探究ゼミ

自然現象の真理や、人間と自然環境との関係性を探究する。

自然科学の究明による人間社会と調和した環境の実現や、**汚染からの環境回復、気候変動、再生可能エネルギーの研究開発拠点が集中する地域特性を活かした循環型のエネルギー・社会の実現**、**望ましい人間社会と地球環境の関係性**などの課題を設定し、持続可能なエコシステム構築に向けて探究と実践を行う。

スポーツ医・科学探究ゼミ

スポーツ医・科学に基づいた**ハイパフォーマンスの実現**について探究する。

スポーツ医・科学にもとづく意図的なトレーニングや、**トップアスリートとすそ野の好循環による育成環境の実現**、**部活動などの育成年代の社会環境の課題**などについて、**スポーツバイオメカニクス、生理学、栄養学、医学、心理学**などの視点から課題解決に向けて探究と実践を行う。

1 新たな連携先「東北大学」

WWL事業の開始にあたり、福島県教委は東北大学高度教養教育・学生支援機構と教育連携協定を締結。協定に基づく取組として、今年度は東北大学の講義「学問論演習」に本校生と福島高校の生徒が参加。この講座では広く学問探究の姿勢を学び、成果報告会も行い、最終的にオープンバッジ(証明書)が発行されます。



福島県教委が東北大と連携



ふたば未来の様子



福島高校の様子

2 「F-REI」など多様な連携機関

- ・令和5年4月に浪江町に開所した福島国際研究教育機構(F-REI)とも新たに連携して山崎理事長による生徒及び教員向けのトップセミナーを本校会場で開催。
- ・イノベーションコースト構想シンポジウムを本校会場で開催し、本校生徒が講演。
- ・早稲田大学ふくしま浜通り未来創造リサーチセンターと連携し1F地域塾を本校で開催。



F-REIトップセミナー



イノベシンポジウム開催



早稲田大連携1F地域塾

3 多様な連携校との交流促進

- ・ニュージーランドの連携校ブロックハウスベイインターメディアイトの生徒が来校し、初めて海外連携校との相互交流を実施。
- ・ドイツの連携校エルンストマツハギムナジウムとも連携。日本の現状を発信。
- ・広島研修では、これまでの広島国泰寺高校に加え、新たに崇徳高校とも連携開始。崇徳高校は1F地域塾の際に本校訪問。



1 運動部の輝かしい実績

- ・バドミントン女子ダブルスで、須藤・山北組がアジアジュニア優勝、世界ジュニア3位、全日本総合3位と破竹の活躍を披露。
- ・レスリングU17世界選手権で、阿久津選手が優勝。本校から世界チャンピオンが誕生。
- ・バドミントン男子団体で見事優勝。エース不在の中、チームワークで栄冠を手に。他にも、男子サッカーがF1リーグで3位に、前年度コロナで棄権した野球部はベスト8。



2 文化部も様々に活躍

- ・中学校特設ディベート部が東北大会で優勝し、全国大会出場。予選を勝ち抜いて、本選出場し、見事全国ベスト8進出。
- ・高校情報科学同好会が、初めてロボットテストフィールドで開催された、EVカーレースにチャレンジし、見事完走。
- ・高校社会企業部は、全国只見線サミットに参加し、プレゼン最優秀賞を受賞。



ディベート甲子園全国ベスト8



情報科学同好会のEVカー



只見線サミットで最優秀

【トピックス4】 創立10年の節目のふたば未来学園の決意



- 平成25年 7月 「福島県双葉郡教育復興ビジョン」取りまとめ
12月 中高一貫校に関する検討会(福島県)の設置
- 平成26年 6月 中高一貫校に関する検討会構想とりまとめ(教育課程、生徒募集方針等を決定)
7月～ 第I期 施設整備(高校)(広野中学校校舎の改修・仮設校舎の整備等)
- 平成27年 4月 福島県立ふたば未来学園高等学校開校**
※ 定員(120名)を超える152名の出願。急遽定員を160名へ拡大するとともに、志願者は受検を経て全員入学。
開校に伴い双葉地区県立高校5校(サテライト校)は募集停止
- 4月 文部科学省からスーパー・グローバル・ハイスクール(SGH)に指定
6月 平成31年度を目途に併設型中学校を開校することを公表
9月～ 第II期 施設整備(本校者の整備)
- 平成31年4月 福島県立ふたば未来学園中学校開校、本校舎に移転**
- 令和 2年4月 文部科学省から高等学校教育改革推進事業(グローバル型)に指定
令和 3年4月～ JFAアカデミー福島(本校三島長陵校舎)が段階的に帰還開始
令和 4年4月 中高一貫一期生が高校入学
令和 5年4月 文部科学省からWWLコンソーシアム構築支援事業・拠点校に指定(東北初)
令和 6年4月 JFAアカデミー福島(三島長陵校舎)本校舎帰還、中高一貫一期生が高校3年
令和 7年3月 中高一貫一期生が高校卒業

※令和6年度の開校10年目によりやく完成年度を迎え、今後の学校経営が鍵

○ 10年の節目が完成年度

- ・三島長陵校舎修了式を行い、令和6年度からJFAアカデミー福島が本校舎に帰還。
- ・平成31年4月にふたば未来学園中学校が開校し、盛大に開校式を挙行了した。この4月であれから5年が経過し、一期生が高校3年になり、ふたば未来学園は完成。

※しかし、ここはゴールではなくスタート地点。廃炉が終了する30年後まで輝き続ける学校になるため感謝と挑戦を大切にする。



三島長陵校舎修了式



H31ふたば未来中開校式



H31ふたば未来中開校式

【その他】 今後一層注力が必要となる課題等

1. 令和6年度以降の学校経営に必要な支援の継続

- ふたば未来学園は、令和6年度の三島長陵校舎生徒の帰還と中高一貫生徒の全学年在籍でいわゆる完成年度を迎えるが、ここからが実質的な学校経営のスタートであり、これから双葉郡内への住民の帰還や移住が一層進むことを踏まえ、当面、各方面から本校への支援は必要な状況。

2. 域外からの新たな活力の呼び込み

- 本校においては、福島復興再生特措法等が目指す域外からの住民の移住等の新たな活力の呼び込みを先行して実現。双葉郡の人材と域外の人材の協働を通じて、新たな活力の創造の基盤となっている。
- 定住人口に与える好影響や、将来的な地域課題解決の担い手を輩出するという観点を踏まえ、引き続き教育を軸とした域外からの新たな活力の呼び込みに注力。

3. 福島国際研究教育機構 F R E I (エフレイ) との連携

- 福島国際研究教育機構F-REI(エフレイ)の世界レベルの研究者との連携による教育プログラムの開発だけでなく、研究者等の子育ての環境や多言語対応など、生活環境整備の基盤としての役割も担う。

4. 福島イノベーション・コースト構想(双葉郡教育復興ビジョン)の実現

- 福島イノベーション・コースト構想が実質化していく中、構想の取組と本校の取組とをシームレスにつなぐ人材育成によって、地元から構想を推進する人材を育成することが不可欠。
- 双葉郡教育復興ビジョンの実現に向けて、双葉郡8町村にゆかりの子どもたちが、ふたば未来学園で学び、課題解決力を身に付け、将来、この地域の未来を担う志を持つ若者を育成することが重要。

福島県立ふたば未来学園は
廃炉が終わる30年後まで
輝き続ける学校を目指す！

ふたば未来学園 検索 ←WEBをチェック

「感謝」と「挑戦」を大切にしていきたい。

We value gratitude and challenges.

